



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

しらこぼと

2012.11

No.343

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



野鳥の行動珍百景

今月号は、2011年11月号「鳥の行動あれこれ」の募集に応募された方々からの便りです。多くの皆さんも、このような鳥とは思えないようなおもしろい行動を目撃されていると思います。「百」景にはまだまだ余裕もあります。これからも多くのお便りをお待ちしています。

おまえはコウモリか [ツミ]
新井 巖 (深谷市)



深谷市の公園でツミが繁殖した。順番に巣立ち始めた5羽の雛の様子を見に行ったときのこと。

カメラマンの「あっ！引っ掛かっちゃった！」の声で振り返ると、高さ3m程の枝先に、巣立って2日目の雛が片足で宙吊りになっている(上写真)。大変だ、どうやって助けようか？と思案していると、数分後に足を放して地面に着地した。

どうやら遊んでいたようで、小1時間の間に3回、同じように逆さ吊りになった。3回目は両足(下写真)で約10分じっとぶら下がったまま、首を持ち上げてこちらを伺う余裕も見せた。

私には初めて見る行動だったが、他の雛たちもこのような行動をするのでしょうか。



高血圧かお疲れか [キガシラシトド]
海老原美夫 (さいたま市)



2011年4月3日から16日までの間、川口市内でキガシラシトド1羽が観察され、埼玉県内初の確認例として記録されたことは、本誌同年6月第326号の「記録委員会情報」で報告された通りですが、このキガシラシトドが道路わきの茂みに入っては、クコの葉をよく食べていました。1度だけではなく何度も、1日だけではなく何日も、頻繁に。

本種の食性に関する資料は手元にありませんが、同じホオジロ科のホオジロは清棲幸保著『野鳥の事典』によれば、「(植物質としては)ツユクサ・カヤツリグサ・カワタデ(中略)などの種子を食べる」とあり、「葉を食べる」という記述はありません。アオジ、カシラダカナなども同様です。

クコは中国原産ナス科の落葉低木。田畑の畔や空き地の周囲などによくあります。葉は枸杞葉(くこよう)という生薬になり、血圧低下、滋養強壮、疲労回復などに効果があると言われています。このキガシラシトドがクコの葉を食べていたのは、血圧を下げるためだったのでしょうか。それとも疲労回復のためだったのでしょうか。

なお、クコは北アメリカにも移入されて、分布を広げているということです。

ジュディ・オング・ポーズ [ハクセキレイ] 大森桃子 (さいたま市)

ある日、鳥を見ながら散歩をしていた時のことです。畑の隅で、ハクセキレイのペアが地面をつつきながら歩き回っていました。突然、オスが両翼を目いっぱい広げたのです。その姿は、そう、あれですね。昔、ジュディ・オングが、袖が扇のように広がる衣装を着て、「♪いんです ろーいん ふおんじー なーじゃーん (ヒット曲『魅せられて』の英語の部分、私にはこう聞こえます)」と歌っていましたね。あの姿が思い浮かびました。さらに尾羽まで左右に大きく広げるのです。自分の体を大きく見せようとしているようでした。その姿でメスの前に立ちはだかかったので、メスは一瞬、びくっとして、警戒するように姿勢を低くしました。するとオスはジュディ・オング・ポーズのまま、よたよたと(翼を広げているので風の抵抗を受けるらしい)、そのわりには素早く、メスの後ろに回り込んで、ハイ、合体!

なんと、これを4回、立て続けに繰り返したのです。さらに5回目を始めようとしたところで、メスがいきなりプイッと飛び去ってしまいました。まるで「いかげんにせい!」と言っているようでした。オスはあわてて後を追っていきました。

ところで、ハクセキレイの交尾って、こんなのが普通なのでしょうか? どなたかご存知でしたら教えてください!



ハクセキレイ(文とは関係ありません。編集部)

犬へモビング [カモ] 藤原寛治 (さいたま市)

20代の頃、私は故郷の岩手県釜石市で、海に山に鳥を楽しんでいました。当時、マイフ

ィールドとして、毎週のようにバイクで鶴住居川河口に通っていました。そこでカモ類の興味深い行動に遭遇しました。

フィールドノートの記録では昭和59年4月24日午後3時45分。河口の中州付近でカモの群れの中にシマアジミを見つけ、観察していたところ、午後5時頃、中州に犬(種類の記録なし)を連れて入っていた人が、突然、犬のリードをはずし、離してしまいました。犬は喜んで?中州の中を駆け回り、カモたちのいる岸近くまで走って行きました。カルガモ2羽があわてて飛びのきます。

すると、犬の気配を感じたコガモ19羽の群れが、逃げるのではなく、逆に犬のいる方に泳いで行きました。そこにシマアジミ1羽も加わり、20羽で犬の方に向かって行きます。望遠鏡で彼らを見ていて、何か憑き物が憑いているような、異様な雰囲気がかもたちから感じられました。犬は立ち止まり、どうしていいかわからないように首を振り、10数秒後、もと来た方に走り去りました。あっという間のできごとでした。

その後に読んだ何かの本に、アカイヌに対するカモのモビングという題で同じようなマガモの行動が写真入りで紹介されており、得心したことを覚えております。

この鶴住居川河口のある鶴住居地区一帯も昨年3月11日、三陸大津波にのまれてしまい、大きな被害を受けました。

擬態でトンボ獲り [ヨシゴイ] 佐伯鶴城 (三郷市)

「くちばしを空に向かって伸ばし、じっとそのまま動かない。そしてくちばしの先にトンボがとまるとパクリと食べているヨシゴイがいる」。7月中頃、そんな話が聞こえてきた。ヨシゴイの擬態は、アシが生い茂る中などで、あくまでも外敵の目を欺くことが目的と理解していた。

当地で観察すること小1時間。確かにヨシゴイは、ハスの葉の上で両足を踏ん張ってくちばしを高く掲げ、止まったウチワヤンマをパクリとやりました。餌をとるときも擬態するんだ。もしかして新しい発見かも。

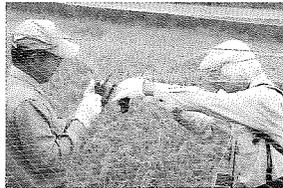
モズ君たち、九死に一生を得る 山口芳邦(新座市)



9月16日、坂戸市高麗川探鳥会。田圃の防鳥ネットに2羽の鳥が重なるように絡まってバタバタもがいている場面に遭遇。よく見ると2羽のモズ(写真：大川清久)。

何とか助けねばと参加者全員で取り囲む中、狭い農道を軽トラがやってきて我々の前で停まった。モズの話をするとその田圃のオーナーだという。助けたいので防鳥ネットの中に入って良いか尋ねると快諾をいただく。若干水がある状態なので、長靴を履いていたFさんが実った稲をかき分けながらモズに近づく。モズに触れると即座にあの鋭い嘴で指を噛まれ、出血。参加者から軍手を借り再挑戦。2羽が重なっている状態なのでSさんに応援を頼む。Sさんは靴を脱ぎ、ズボンをたくし上げ、軍手をしてネットをくぐる。

2人で1羽ずつをネットから外そうとするが(写真：星進)、糸が絡み付いているのと時々噛まれるので苦戦。Sさんのモズ



は口に糸が絡んでいて、それがモズの嘴の特徴的構造である嘴縁突起に引っかかってなかなか外れない。田んぼの反対側にいたオーナーに大声で糸を切っていいか聞くと「いいよう！」とこれまた快い返事。ナイフを持っていたSさんが糸を切る。2羽ともほぼ同時にネットから外すことができた。

ところがネットの中でFさんが握っていた1羽が手のひらからさっと滑り出て、低空で参加者達の立っているネットへ直進。「またひっかかるー！」と思った瞬間、まるでネットがないかの如くさっと通過して飛び去った。羽を広げたモズがどうやってネットをすり抜けたのかなあ。

もう1羽はSさんがネットの外へ持って出

る。折角なので、手の中のモズ君をHさんに写してもらおうとした瞬間、これまたすり、飛び去りました。

こうして2羽のモズ君たちは埼玉の愛鳥家達によって九死に一生を得たのでありました。めでたし、めでたし！

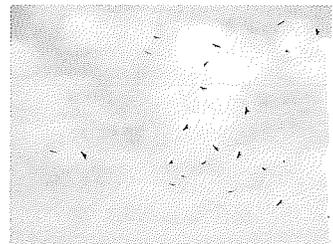
最後にお礼のため残って、オーナーとちょっと立ち話をしました。今年は何故か田圃に来るスズメが異常に少ないと言っていました。

鳥合わせが終わっての帰り道、現場近くでモズが鳴いていました。誰かが「きっと、さっきのモズがお礼を言っているのよ」。そう、そう考えたらとても晴々した一日になりましたよ。

(事務局註：野鳥の会関係では、茨城県が長年にわたり「防鳥ネットから野鳥を守ろう」キャンペーンを続けています。)

五島列島福江島への旅 森本國夫(熊谷市)

Nさんのお世話になって9月末に長崎県の福江島に行く機会を得た。目的はハチクマの渡り。大瀬崎での観察初日は午後からで、次々と鷹柱が見られたが、これはほんの序章にすぎなかった。観察2日目は1日で1,400羽の出現、最終日の3日目は飛び始めが遅かったが、8時頃から次々と鷹柱ができ始めた。最も大きな鷹柱は調査している方の話ではおよそ450羽。それも上部では高度を得たハチクマが次々と中国大陸に向けて旅立ち、下部では周囲から続々と集まって舞い始めるといった具合であったことから、総数はさらに多くなったに違いない。さすがは大瀬崎と、その雄大さに感激。1シーズンに2~3回あるかどうかというすばらしい日に当たったのだ。帰りの飛行機に乗って窓を見ると雨で濡れていた。渡って行ったハチクマたちは無事に大陸に到達したのだろうか。





野鳥情報

蓮田市西城沼公園周辺 ◇8月16日、メジロ10羽士が桜の梢を枝移り。ハシボソガラスの一家（雛3羽）とハシブトガラスの一家（雛2羽）が子育てに奮闘。子ガラスの鳴き声が一段と大きくなった。オオタカがガラス5羽にモビングされながら上空通過。8月23日、屋敷林の古木の梢にカッコウ科の鳥が1羽。ツツドリの様だ。8月30日、サンバが1羽、近くの屋敷林の上空を2度3度旋回。チョウゲンボウ♀が現れ、サンバに躍りかかった。反撃するサンバ、激しい空中戦。横からサンバが4羽5羽と増え、チョウゲンボウもさらに1羽が加わり、計7羽のタカ柱となった後、南に流れた。9月3日、サンバ4羽のタカ柱。公園族に教えたなら驚いていた。ムクドリ60羽士の中にコムドリ2羽。コジュケイが数ヶ所で鳴く。9月5日、白い翼帯が目立つチドリが2羽、沼の岸辺を飛び回っていた、多分イカルチドリであろう。サンバ5羽のタカ柱、その後西南に流れた。9月13日、サンバ3羽と小型のタカが輪を描いていた。小型のタカはハイタカのような。9月19日、畑の上空をカケス1羽通過してナラ林に入った。サンバ1羽が屋敷林の天辺に止まったが、ガラスに追われて姿を消した。小型のタカが屋敷林の中でガラスとバトル。ハイタカのような。9月24日、エナガ5羽がヒノキの林を枝移り。今季ここで初認。ヒヨドリが騒がしく鳴くようになった。渡って来たようだ。サンバが1羽、輪を描いていた。近頃コジュケイが鳴かなくなった。9月27日、カケス4羽がナラ林で鳴きながら枝移り。他に2羽上空通過。モズが高鳴きするようになった。虫赤らみの柿をメジロ2羽が啄んでいた。9月30日、サンバが1羽、ひとときわ高い樹の梢に止まっていた。ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、コゲラの混群がイヌシデの林を移動していった。公園の桜の樹の梢でエゾビタキがフライキャッチしていた。ここで今季初認（長嶋宏之）。

行田市齋条 ◇8月18日、オオタカ1羽、チュウサギを捕食。チョウゲンボウ1羽、オジロトウネン1羽、アメリカウズラシギ1羽、ウズラシギ1羽、タカブシギ3羽。アオアシシギ40羽+の群れ中に、エリマキシギ♀1羽、ツルシギ夏羽1羽、コアオアシシギ3羽、オグロシギ1羽（小林洋一・小林みどり）。◇8月21日、ムナグロ30羽士、コチドリ20羽士、ヒバリシギ1羽、キリアイ1羽、タカブシギ1羽、オオジシギ1羽。その他にヒバリ、セッカ、ダイサギ、チュウサギ、アマサギ、コサギ、アオサギ、ツバメ等（長嶋宏之）。

さいたま市見沼区猿花キャンプ場 ◇8月21日、センダイムシクイ2羽+、シジュウカラ、メジロと混群になっている。9月14日午前6時頃、ヤマガラ4～5羽、ここでは初めて見た。茂みの中でホオジロ1羽がじっとしている。換羽中なのか、羽毛が全体にボサボサしている（小林みどり）。

さいたま市岩槻区岩槻城址公園 ◇8月22日、イカル2羽。「クルル、クルル」と聞き慣れない声があるので、注視するとイカルがいた。私にとって、この場所でのイカルの観察は初めて。9月10日午前10時頃、キビタキ♀1羽、一声鳴いて飛び去って行った（菊川和男）。

春日部市倉常 ◇8月25日、ケリ5羽（小林洋一・小林みどり）。

坂戸市西坂戸調整池 ◇8月25日午後6時20分、調整池上空にツバメが集まりだす。6時30分アシ原に降りだす。6時35分、かなりねぐら入りするも、上空にはまだ数百羽の群れが飛んでいる。6時40分全部アシ原にねぐら入りする。8月27日午前4時30分～4時50分、ねぐらのアシ原からツバメが飛び立つ。8月29日午後6時15分、調整池上空にはツバメ10羽ほど。6時25分頃から数が増え、早く来た群れからアシ原に降り、6時40分ねぐら入り終わる。日没の早くなったのに合わせて、ねぐら入りの時間も早くなった。南方への渡りが始まったのか、数も3分の1の200羽ほどに減った。9月10日午後5時55分、調整池西側の林上

空にツバメが飛び交う。6時10分～6時15分、10数羽がアシ原に降りねぐら入り。本日、ツバメがねぐら利用の終認とし、6月下旬からの観察も終了する(増尾隆)。

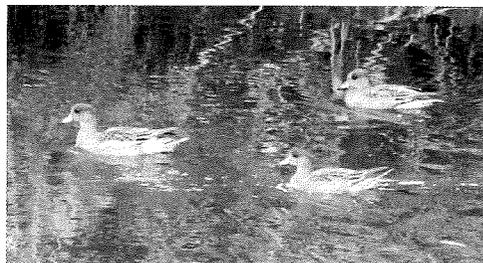
羽生市羽生水郷公園 ◇8月28日、ホオジロ♂がアオムシを銜えて歩いていた。どこかにヒナが居るのだろう。4羽のセグロセキレイの巣立ちヒナが芝生で採餌。兄弟のようだ。ショウドウツバメが電線に7羽。ツバメと混じってとまっていた。その他にトビ、バン、カワセミ、ヒヨドリ、モズ、セッカなど。9月21日、聞いたことのない声だと思ったらモズだった。アカゲラが鳴きながら幹から幹に移動していった。ここでアカゲラを見るのは珍しい。オオタカがゆっくりと輪を描いていた。ヤマガラがエゴノキの実を啄んでいた。くすんだ色のカワラヒワ4羽が葦にとまった。その他にトビ、ツバメ、バンの若鳥、セッカ、ホオジロ、カワセミ、コガモなど(長嶋宏之)。

さいたま市見沼区蓮沼 ◇9月1日午前6時頃、コムドリ20羽士、民家の庭の桜に集まる。9月3日午前6時頃、カワラヒワが畑でヒマワリの種を食べる(小林みどり)。

行田市犬塚近辺農耕地 ◇9月8日午後3時頃、電線にずらりとたくさんのショウドウツバメ。見ていると数がどんどん増えた。同行の仲間達とカウントしたところ、およそ900羽。30分くらい後、一斉に飛び立った。さて何処へ(星進 他4名)。

さいたま市見沼区染谷 ◇9月10日午前10時頃、雑木林でコサメビタキ1羽、ムシクイ不明種1羽、シジュウカラやメジロの群れと共に枝移り。9月21日午前10時半頃、雑木林でセンダイムシクイ1羽、ヤマガラ2羽+。キビタキ♂1羽、アカメガシワの実をついばむ。10月1日午前10時頃、この辺では珍しいトビ1羽、上空通過。ヤマガラ5羽+、エゴノキを何度も往復する。実を運んでいるらしい。枝の裂け目に何かを押しこんでいる姿も見られた。この秋はヤマガラがやたらに目立つ(小林みどり)。

さいたま市見沼区加田屋 ◇9月10日午前9時半頃、加田屋川にダイサギ1羽、アオサ



ヒドリガモ 9月27日 川越市新河岸川
ブリングマン・ウィリアム(ふじみ野市)

ギ1羽、カルガモ40羽士、農耕地ではセッカ1羽さえずる(小林みどり)。

さいたま市見沼区大和田緑地 ◇9月11日午前10時頃、ヤマガラ1羽、ここでは珍しい。ムシクイ不明種1羽。9月18日午前9時頃、コサメビタキ1羽、ヤマガラ2羽、シジュウカラと共に行動(小林みどり)。

さいたま市見沼区卸町 N35.9481 E139.6791
◇9月19日、コガモ(エクリプス)4羽、ダイサギ、コサギ、アオサギ各1羽、ゴイサギ成鳥1羽、幼鳥5羽、カワセミ1羽、バン成鳥3羽、幼鳥2羽、ツバメ1羽(長嶋宏之)。

坂戸市西坂戸二丁目 ◇9月22日午後2時、自宅の部屋に居たところ「チーッ」と数回鳴き声。あわてて、開いていた窓にかけより「どこだ〜」と網戸越しに見ると、窓下真ん前の葛川護岸にカワセミ♂1羽。嘴に銀色に光る3センチほどの小魚をくわえ、しばらくして飲み込んだ。「ラッキー」2人でハイタッチ!(増尾隆・節子)。

さいたま市見沼区深作 ◇9月24日午後3時頃、ノビタキ2羽。ツバメ30羽位が飛び交っているのを遠くに見て、そのまわりを探していると視野に入った(菊川和男)。

さいたま市北区市市民の森 ◇10月2日午後1時半頃、アカゲラ♀1羽、ツツドリ幼鳥1羽(小林洋一・小林みどり)。

表紙の写真

サギのコロニー

2012年8月30日撮影。

遠山和夫(越谷市)



行事案内



シジュウカラ

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所におでかけください。

初めての方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をかけてください。参加者名簿に住所・氏名を記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーたちが望遠鏡で見せてくれます。体調を整えてご参加ください。

参加費：就学前の子無料、会員と小中学生 50 円、一般 100 円。

持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。

解散時刻：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。

悪天候の場合は中止、小雨決行です。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

松伏町・まつぶし緑の丘公園探鳥会

期日：11月3日(土・祝)

集合：午前9時、松伏町まつぶし緑の丘公園管理棟前。

交通：東武伊勢崎線せんげん台駅東口、茨城急行バス③番乗り場からまつぶし緑の丘公園行き 8:21 発で、終点下車。

担当：橋口、田邊、吉岡、榎本(建)、植平、野村(弘)、野村(修)、森下、進士、佐野、佐藤、小林(善)

見どころ：池にはコガモ、マガモが勢揃いし、実が残った木々では、渡ってきた小鳥たちが食事にいそしんでいます。今シーズンは冬鳥が期待できそうです。

上尾市・丸山公園探鳥会

期日：11月4日(日)

集合：午前8時、丸山公園北駐車場。

交通：JR高崎線上尾駅西口①番バス乗り場から、西上尾車庫行き(畔吉経由) 7:32 発にて「畔吉」下車、徒歩約8分。

担当：大坂、浅見、阿久澤(キ)、阿久澤(廣)、柴田、立岩、永野、野口(由)、長谷川、山野

見どころ：いよいよ冬鳥の季節がやって来ました。ジョウビタキやシメたちも姿を見せてくれるでしょう。また池のカワセミも楽しみのひとつです。河川敷ではオオタカの出現を期待します。

行田市・利根大堰探鳥会

期日：11月4日(日)

集合：午前8時10分、秩父鉄道行田市駅南口、集合後 8:19 発市内循環バスでバス停「老人福祉センター」へ。または午前9時、見沼元塚(みぬまもといり)公園駐車場。

交通：秩父鉄道羽生 7:49 発熊谷行き、または秩父鉄道熊谷 7:55 発羽生行きに乗車。行田市駅下車。

解散：午前11時30分頃、現地駐車場にて。

担当：入山、小林(み)、内藤、関口、村上
見どころ：カモを中心に観察します。オスはまだ、お化粧前の地味な姿です。図鑑片手に識別に挑戦しましょう。ついでに、サケの遡上も見ると予定です。

その他：秩父鉄道ではスイカ・パスモが使えません。切符をご購入ください。バス代は、行田市駅⇄老人福祉センター片道100円。帰りは老人福祉センター11:51発、または15:26発、行田市市内循環バス北西循環コース(右回り)に乗車。風が吹いたら逃げる所がありません。防寒対策を十分に。

羽生市・羽生水郷公園探鳥会

期日：11月8日(木)

集合：午前9時、羽生水郷公園北駐車場。

交通：東武伊勢崎線羽生駅東口から、羽生市営バス手子林・三田ヶ谷ルート(ムジナもん号)8:05 発で、「羽生水郷公園・キャッセ羽生」下車。

担当：中里、新井(巖)、栗原、植平、飛田、竹山、相原(修)、相原(友)、中川

見どころ：公園内のケヤキもきれいに色づき、冬の気配が感じられる風が流れています。遠来の冬鳥たちを迎えて賑わいを見せています。久しぶりの再会を楽しみましょう。遠くに望む日光連山が皆さんのお出かけをお待ちしています。

注意：帰りのバスの便は、14:51発です。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：11月11日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。
交通：秩父鉄道熊谷9:09発、または寄居8:51発に乗車。

担当：新井(巖)、森本、倉崎、鶴飼、千島、栗原、飛田

見どころ：木の葉が落ち始め、鳥が見やすくなってきました。ジョウビタキ、ベニマシコ、ツグミ、シメ……。遠路到着した冬鳥たちとの再会が楽しみです。コハクチョウにも会えるといいですね。

春日部市・内牧公園探鳥会

期日：11月11日(日)

集合：午前9時15分、アスレチック公園前駐車場。

交通：東武伊勢崎線春日部駅西口、朝日バス③番乗り場から、春日部エミナース行き8:41発で「共栄大学入口」下車。西へ徒歩約7分。

担当：石川、吉安、橋口、吉岡、野村(弘)、野村(修)、進士、佐藤、佐野

見どころ：冬鳥や漂鳥到来の季節です。数が少なかった昨年と比べ、今季はたくさんの姿を見せてほしいですね。屋敷林や田んぼなどをめぐりながら、出会いを期待します。その他：帰路バスは、上記バス停から春日部駅西口行き13:07、14:20です。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：11月17日(土)午後3時～4時ころ
会場：会事務局 108 号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：11月18日(日)

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：倉林、新部、渡辺、小菅、若林、赤堀、増田、須崎、畠山、柴野、宇野澤、青木、楠見

見どころ：参加者は相変わらず多数で賑やかです。しかし、夏鳥の数は少なかった。それを取り戻すように冬鳥の到来を楽しみたいのです。

嵐山町・菅谷館都幾川探鳥会

期日：11月18日(日)

集合：午前8時45分、東武東上線武蔵嵐山駅西口。または午前9時15分、県立嵐山史跡の博物館駐車場。

交通：東武東上線川越7:57発、または寄居8:04発に乗車。

担当：千島、新井(巖)、中村(豊)、鶴飼

見どころ：雑木林から都幾川沿いを歩きながらカシラダカ、ジョウビタキ、シメ、ツグミ等を探します。そうそう、昨年はホオジロハクセキレイで盛り上がりました。

栃木県・奥日光(戦場ヶ原)探鳥会

期日：11月18日(日)

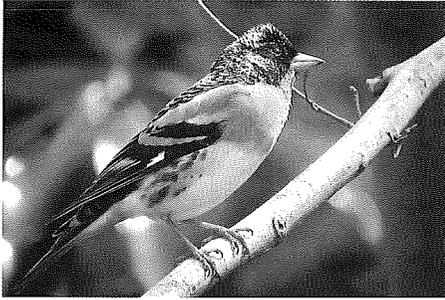
集合：午前11時、湯滝レストハウス前。

交通：東武日光線春日部7:44発快速東武日光行きで東武日光9:20着。または、東武日光線春日部8:02発特急げごん1号東武日光行きで東武日光9:16着。その後、東武バス、東武日光9:35発光徳・湯元温泉行きで湯滝入口(10:55頃着)下車。湯滝入口バス停から集合場所まで徒歩約5分。

解散：午後3時半頃、戦場ヶ原赤沼駐車場。赤沼バス停から帰宅の途へ。

担当：入山、玉井、石川、中里

見どころ：紅葉が終わった戦場ヶ原で、アトリ、マヒワ等の冬鳥を探します。運が良く



アトリ

れば小滝周辺でアオシギが、赤沼付近ではレンジャクが見られるかも知れません。
その他：①昼食を必ず持参し、防寒対策をしっかりと。②探鳥コースは殆ど平坦で、約5km位歩きます。ただし、積雪の可能性があります。③交通費は、東武鉄道「まるごと日光東武フリーパス」が便利（大宮等東武線の埼玉県内は殆ど4,180円）④前日の午後5時発表の天気予報で、宇都宮（栃木）の降水確率が30%を超えた場合は中止です。その場合、担当者は集合場所に行きません。

さいたま市・見沼自然公園探鳥会

期日：11月23日（金・祝）

集合：午前8時15分、JR大宮駅東口「こりすのトトちゃん」像前。または午前9時15分、見沼自然公園駐車場。

担当：浅見、小林（み）、兼元、松村、赤堀、野口（修）、山田、柴野

見どころ：見沼自然公園をスタートとゴールに、見沼たんぼを歩きます。中間地点「見沼くらしっく館」で小休止。トイレ完備です。身近な野鳥が中心ですが、運が良ければタカも飛びます。タヒバリも期待。

本庄市・坂東大橋探鳥会

期日：11月23日（金・祝）

集合：午前9時20分、バス停「坂東橋南詰」近くの老人福祉センター「つきみ荘」北側。
交通：JR高崎線本庄駅北口から、国際十王バス9:06発、伊勢崎駅行きで「坂東橋南詰」下車。

担当：新井（巖）、小池（一）、小池（順）、倉崎、小淵、鶴飼、千島

見どころ：豪雨のたびに河原の様子が変わります。鳥たちの顔ぶれも年毎に少しずつ違うようです。自然の奥深さ、面白さですね。今回はどんな出会いがあるでしょうか。注意：河原を歩きます。足拵えはしっかりと。

志木市・柳瀬川探鳥会

期日：11月24日（土）

集合：午前9時、東武東上線柳瀬川駅西口、スーパー・サミット前の円形広場。

担当：持丸、佐久間、高草木、荒木、志村、神場、杉原、鈴木、藤澤、中村（治）、中村（祐）、山口

見どころ：戻って来た冬鳥を探しながら柳瀬川の土手を散策します。

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：11月25日（日）

集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。
交通：西武新宿線本川越8:44発、または所沢8:38発に乗車。

解散：正午頃、稲荷山公園。

担当：長谷部、高草木、中村（祐）、星、石光、山本（真）、久保田、山口、水谷、間正

見どころ：7月、9月は20数種だった鳥たちも、11月になると30種以上が見られるようになります。渡って来た冬鳥たちを探して、河原と稲荷山公園の林の中を歩きましょう。

蓮田市・黒浜沼探鳥会

期日：11月25日（日）

集合：午前8時45分、JR宇都宮線蓮田駅東口バス停前。

担当：玉井、田中、長嶋、青木、菱沼（一）、長野、榎本（建）、吉安、小林（み）、内田（克）

見どころ：冬鳥達が里に戻ってきます。まだ枯れ葉の残る木立にはツグミやシメが、枯れ始めたアシ原にはアオジやオオジュリン等のホオジロ類が潜んでいます。見慣れた冬鳥達との久しぶりの再会には心踊ります。



行事報告

5月20日(日) 栃木県 奥日光

参加: 33名 天気: 晴

カワウ アオサギ マガモ キンクロハジロ ミサゴ トビ ノスリ キジバト カッコウ アカゲラ オオアカゲラ ツバメ イワツバメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ カワガラス ミソサザイ コマドリ コルリ ノビタキ アカハラ ウグイス メボソムシクイ エゾムシクイ センダイムシクイ キビタキ オオルリ コサメビタキ コガラ ヒガラ シジュウカラ ゴジュウカラ キバシリ ホオアカ ホオジロ アオジ ニュウナイスズメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (44種) 朝から天気良く、意気軒昂で奥日光を目指す。湯ノ湖畔のデッキでは、コマドリが囀っていて、私達を歓迎しているようだ。湯滝までの途中では、ムシクイ類が沢山姿を現してくれた。ただし、囀ってくれないと名前がわからない状態。識別は難しい。「君達、名札を付けてくれ～」と思うのは、私だけ??? 途中、コルリの姿を見る事が出来た運の良い人もいた。湯川沿いの遊歩道では、キビタキの美しい姿とミソサザイの美声にうっとりする。分岐点から戦場ヶ原までの湿原では、ノビタキ・ホオアカを見る事が出来た。最後に三本松でカッコウの声を聞いて探鳥会を終了した。春の奥日光は、環境の変化に富み、素晴らしい探鳥地だと思う。しかし、最近、台風などの影響で大きな木々が倒れて、森全体が明るくなってしまった。この豊かな自然がこれ以上傷つかないように願っている。

(入山 博)

6月2日(土) 坂戸市 高麗川

参加: 31名 天気: 晴

カイツブリ カワウ アオサギ カルガモ オオタカ サシバ コジュケイ キジ イカルチドリ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ウグイス オオヨシキリ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナ

ガ ハシボソガラス ハシブトガラス (29種) (番外: ガビチョウ、ドバト) 集合時間を8時に早めでの最初の探鳥会。1時間早いと、より爽やかさも感じられ、集合時間繰り上げに対する参加者の反応は概ね良好のように思われた。両翼の一部が欠落した同定に悩む猛禽が飛び、鳥合わせではノスリとしたが、撮影された数枚の映像を後日担当リーダー達で検証した結果、サシバとなった。城山橋上流の水辺沿いに護岸工事車両の臨時仮設道路が作られていて、水辺と対岸に高く迫る山の緑とが楽しめる今回限りの特別コースを歩くことができた。

(山口芳邦)

6月3日(日) 北本市 石戸宿

参加: 22名 天気: 曇一時雨

カイツブリ カワウ アオサギ カルガモ キジバン キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ ヒヨドリ モズ ウグイス オオヨシキリ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ハシブトガラス ハシボソガラス (22種) (番外: ガビチョウ) スタート直ぐにふれあい橋の上から葦原中の柳の木で囀るオオヨシキリを観察。木道を歩いている時にポツリポツリと来て、エドヒガンザクラの前で激しい雨。学習センターに戻って雨宿り。直ぐに雨が上がって再開した。河川敷では釣り人も少なく釣り堀にカワウが着水し、潜って魚を追いかけていた。高尾の池では、対岸の葦の中に前から営巣し抱卵しているカイツブリを望遠鏡で観察。今日はバンの巣作りをしているのも気が付いて望遠鏡で観察。最後は、八つ橋の上からコウホネとアサザの黄色い花を観察。一昨日ホトトギスの声が確認されたとの事であったので期待したが聞くことが出来なかったのと、カッコウもまだ来ていないのか聞くことが出来なかったのは残念。

(吉原俊雄)

6月3日(日) さいたま市 民家園周辺

参加: 35名 天気: 曇

カイツブリ カワウ アオサギ マガモ カルガモ チョウゲンボウ キジバン オオバン コチドリ コアジサシ キジバト カッコウ カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ ウグイス オオヨシキリ セッカ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (29種)

(番外：ドバト)曇り空ではあるが快適な風が吹き抜ける。湖面では1羽のコアジサシがダイビングを繰り返していた。繁殖期で鳥の数は少なかったが一面緑の調節池。いつまでも眺めていたい気持ちになった。(手塚正義)

6月10日(日) 熊谷市 大麻生

参加：43名 天気：曇後晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ カルガモ キンクロハジロ トビ チョウゲンボウ コジュケイ キジ キジバト ホトトギス コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ウグイス オオヨシキリ セッカ シジウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (29種) (番外：ガビチョウ) 土手に上がるとムクドリの成鳥・幼鳥が電線に並んでいた。カワラヒワが地鳴きとさえずりの両方を聞かせてくれた。なかなか姿を見せないガビチョウが木の中から飛び出した。ツバメの幼鳥が電線で餌を待っていた。チョウゲンボウ2羽が滑翔して盛り上げてくれた。ゴルフ場横の道路にキジが1羽。モズの幼鳥2羽が梢に止まっていた。ようやくホトトギスの声がして飛んでいるところが見えた。河原に下りると枯れ木にカワラヒワの幼鳥。毎年繁殖しているカイツブリの浮き巣が池にない。オオヨシキリのさえずりを聞き川岸に出ると、取り残されたキンクロハジロが1羽寂しそうだった。(千島康幸)

6月16日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア：10名

新井浩、江浪功、榎本秀和、大坂幸男、小林みどり、佐久間博文、志村佐治、長嶋宏之、増尾隆、松村禎夫

6月17日(日) さいたま市 三室地区

雨のため中止。(楠見邦博)

7月1日(日) 群馬県板倉町 渡良瀬遊水地

参加：59名 天気：曇

カイツブリ カワウ ササゴイ ダイサギ アオサギ カルガモ キンクロハジロ トビ オオタカ キジ コチドリ アジサシ コアジサシ キジバト カッコウ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ウグイス

コヨシキリ オオヨシキリ セッカ ホオジロ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (31種) (番外：ドバト) 今年ヨシ原浄化ゾーンにヨシゴイ、ササゴイが見られず不安であったので、探鳥前に事情を説明。また、渡良瀬遊水地がラムサール登録されることを、ポスターとともに紹介。歩き始めてカッコウやコアジサシが見られたが鳥影少なく気をもむ。コヨシキリも少なく場所を変えている。谷中湖には帰りそびれたキンクロハジロが1羽目立った。折り返し点のウォッチングタワーからササゴイが見られ一安心。ヨシゴイが、このコースで見られなかったのは残念だったが、終わってみれば31種とこの時期ではまずまずだった。(内田孝男)

7月8日(日) 熊谷市 大麻生

参加：21名 天気：曇

カワウ ダイサギ アオサギ キンクロハジロ トビ オオタカ キジバト ホトトギス アマツバメ コゲラ ツバメ イワツバメ ヒヨドリ モズ ウグイス シジウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (23種) (番外：ガビチョウ) 朝方の雨もほぼ上がって、カンカン照りよりはむしろ好都合。出発直前にオオタカが現れ、土手に上がるとツバメに混じってイワツバメとアマツバメが飛び回り、スタートは上々だ。胸に縦斑のカワラヒワ幼鳥やコゲラの親子との出会いはこの時期ならではの…。河原に着くと、ウグイスとホオジロがさえずりの競演で出迎えてくれた。取り残されて寂しそうなキンクロハジロにエールを送って、水辺での鳥合わせで終了した。(新井 巖)

7月15日(日) さいたま市 三室地区

参加：56名 天気：晴

カワウ カルガモ オオタカ チョウゲンボウ コチドリ イソシギ キジバト カワセミ ヒバリ ツバメ ヒヨドリ モズ オオヨシキリ シジウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (21種) (番外：ドバト) 見沼たんぼには鳥は少なかったが、土手のホオジロをゆっくり観察するなど楽しかった。お目当てのカルガモの親子も出現。普及部長が丹精込めた野菜の即売店がまた良かった。(楠見邦博)



● **ワイルドバードカレンダー-2013**



今年もテーマは「多様な風景 多様な野鳥」。日本各地のさまざまな風景とそこで暮らす野鳥たちのワンシーンを切り取った 12 枚の写真カレンダーです。通常の販売価格 1,470 円、会員

割引価格 1,250 円。

年内に売り切れる目安の部数を仕入れます。売り切れの場合、再仕入れはしません。お早めにお求めください。

● **日本鳥類目録第 7 版が発刊されました**

日本鳥学会 100 周年を記念して 9 月に発刊された改訂第 7 版は、第 6 版の 18 目 74 科 230 属 542 種に対し、24 目 81 科 260 属 633 種となりプラス 91 種。亜種も入れると 100 以上が新たに掲載されました。

従来亜種だったものが種に格上げされるのが多いのではないかと噂されていましたが、それよりむしろ分類の順序などが大きく変わったのが目立ちます。例えばキジ科とカモ科が目録の先頭に置かれ、従来近いと考えられていたタカ科とハヤブサ科は離れたところに置かれ、ホオジロ科が最後になりました。

当会の「埼玉県野鳥チェックリスト 2011 年版」は、まだ相当数あります。当分はそ

れを使い続け、いずれ新しく作り直すときには、野鳥記録委員会の方で、第 7 版に準拠したものを作成します。

● **普及活動**

9 月 29 日(土)さいたま市桜区秋ヶ瀬公園で開催された新ハイキングクラブ主催の探鳥会で、14 名の参加者に対し、小林みどり、浅見徹、内田克二が指導、22 種の鳥を観察しました。

● **会員数は**

10 月 1 日現在 1,922 人。

活動と予定

● **9 月の活動**

- 9 月 8 日(土) 9 月号校正(海老原美夫、大坂幸男、小林みどり、長嶋宏之、藤掛保司、山田義郎)。
- 9 月 16 日(日) 役員会(司会: 田邊八州雄、各部の報告・その他)。
- 9 月 18 日(火)「埼玉会報だけの会員」に向け 10 月号を発送(倉林宗太郎)。

● **11 月の予定**

- 11 月 3 日(土) 編集部・普及部・研究部会。
- 11 月 10 日(土) 12 月号校正(午後 4 時から)。
- 11 月 17 日(土) 袋づめの会(午後 3 時から)。
- 11 月 18 日(日) 役員会(午後 4 時から)。
- 11 月 24 日(土)～25 日(日)見沼ツデーウォーク中央会場(さいたま新都心駅東口高沼遊歩道)にブース出展検討中。

編集後記

9 月の役員会報告を見てビックリ！ 10 月号『しらこぼと』袋づめの会のこと。すっかり抜けていました。さらに確認したらなんと 9 月号でも抜けていた!! 11 月号で久々の復活です。(浅見)

しらこぼと 2012 年 11 月号(第 343 号) 定価 200 円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉 郵便振替 00190-3-121130
 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町 4 丁目 26 番 8 号 プリムローズ岸町 107 号
 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 http://35.tok2.com/wbsjsaitama/
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com
 住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田 3 丁目 9 番 23 号 丸和ビル
 (公財)日本野鳥の会会員室 TEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635 gyomu@wbsj.org
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社